



HOKUYU INFORMATION

新型コロナウイルス感染症への対応

昨今はどちらを向いてもコロナのお話ばかりですね。しかし医療機関や一般市民にとって、この感染症は色々な意味で重大な影響をもたらす疾患です。民間医療機関は経営的な危機に陥る可能性がありますし、一般市民にとっては、場合により命の危険にさらされる可能性があります。ましてや、当院の患者さんは悪性疾患（消化器癌などの悪性腫瘍、白血病などの血液疾患）の方や、慢性腎不全で透析を受けている方、腎不全で腎移植を受けた方、また年齢的には比較的高齢の患者さんに多数利用して頂いています。これらの患者さんは、多くが免疫不全状態にありますので、新型コロナウイルスに感染すると重症化する恐れがあります。仮に院内感染が発生するとその影響は計り知れません。

そこで当院では嚴重な感染予防体制を確立しています。今回はこれらをご紹介します。

感染予防の基本は標準予防策と言われる手洗い（手指衛生）とマスクの着用、さらにはエリア分け（ゾーニング：感染者と非感染者の分離）です。これらの体制作りを2020年2月から開始しました。

最初に行ったのは外来での発熱チェックと聞き取り調査です。発熱している患者さんを熱のない方々から隔離します。これに合わせて、入院患者さんの面会制限（原則禁止）を実施しました。この頃から道内の感染者が急増したため、全館個室の当院でもゾーニングが困難になり、5月の下旬に第1病棟を改造しコロナ専用病室を設けました。廊下にドアを3カ所設置し、リハビリ室の入口を塞ぎ、壁を壊して新たな入口を作りました。加えて、この病棟を運営する為に、6月から臨時で新しい看護師を数名雇用しました。さらに、病棟内の感染症専用病室（個室）にはそこだけで管理できる人工呼吸器や、個人用の透析装置を導入しました。これまでに3名の方が、ここで血液透析を受けました。幸いPCR検査陽性の方はまだいませんが、感染疑い患者さんの検査結果が出るまでここで管理しています。これに先立つ4月下旬からは、院内全職員を対象に、個室での気管挿管ビデオ研修をホームページで開始しました。7月には感染防護具（PPE）の着脱研修ビデオも作成しました。

さらに、院内での感染検査体制を立ち上げましたが、7月から自前で抗原検査を実施できるようにしました。また、9月初旬から院内でPCR検査ができるように、8月下旬に検査室の改造工事と検査機器の導入を予定しています。

一方、対外的には、札幌市内の無症状者や軽症者を収容する宿泊療養施設（借上げホテル）に医師と看護師数名をCOVID-19 JMAT（日本医師会災害医療チーム）として派遣しました。今後も要請があれば派遣するつもりです。

以上、駆け足で院内体制の構築をご紹介しましたが、長い自粛生活でストレスも少なくありません。しかし、医療従事者としての矜持と使命感で頑張っています。患者さんやご家族に多大なご不便をおかけしていますが、地域や地域医療を守るために今後も努力して参りますので、市民の皆様のご理解とご協力・ご支援をお願い申し上げます。

院長 目黒 順一

◆特集

各科医師のごあいさつ

新任医師の紹介

◆スリッパ履き替え廃止のお知らせ

札幌北楡病院 基本方針

1. 患者さんに公正な医療を提供します。
2. 患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
3. 患者さんの安全を保障し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
4. 高度医療を積極的に推し進めます。

各科

医師のごあいさつ

外科

服部 優宏

外科は米川元樹、目黒順一、久木田和丘、大家角義、小野寺一彦、堀江卓、高橋宏明、服部優宏、後藤順一、谷山宣之、佐藤正法、木井修平の12名です。透析・血管外科チームと消化器外科チームに分かれて診療しています。透析関連ではBlood Accessトラブル、維持透析、アフエレーシスに幅広く対応し道内の多くの施設からの信頼を得ております。また、消化器外科は内視鏡外科を重点的に行っており、現在、内視鏡外科学会技術認定医が2名おります。ロボット支援下手術を再開いたしました。が保険適応条件がクリアできず、少しずつ症例を重ねています。2019年の外科の手術件数は約1330例で、全麻手術は約240例でした。今年度はCOVID19で困難な年ではありますが、4月からは麻酔の常勤医として山吹有香先生が赴任して下さり、外科として可能な限り多くの手術を行えるように努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

肛門外科

小野寺 一彦

コロナ自粛の昨今、肛門外科は(不要は付かないが)不急の診療科と思いきや、「仕事が休みになったので予めからお勧めの手術をして」という逆説的患者さんもあった次第。

そこで肛門科の救急を考察するに、肛門周囲膿瘍、糞便塞栓、持続的(あるいは大量)肛門出血、痔核嵌頓、高度肛門狭窄、肛門異物、突発性肛門痛あたりかと。いずれも手遅れにならなければ何とかなるが、ときに敗血症や疼痛性あるいは失血性ショックに陥ったりもする。

しかし、相変わらず判断が難しいのは血液内科の肛門疾患。既に白血球も血小數もゼロに近いかもしれない。これはこれからその域に突入しようとしている時、もっぱら外科的処置を生業にしてきた者は怯む。そんなこんなで血液内科から当科へ紹介された患者は5年で300人となり、少しまとめてみたがこれまたコロナで学会延期とあいなっている次第。

コロナ禍は今後社会構造や価値観だけでなく医療のスタイルも変えていくかもしれません。今年度もご協力宜しくお願ひ申し上げます。

腎

臓移植外科・泌尿器科

三浦 正義

泌尿器科・腎臓移植外科は今年度も三浦、東山の体制で泌尿器科全般、および腎移植診療に取り組んでおります。泌尿器科領域では、本邦で増加の著しい前立腺がんに対する新しい治療法を導入しました。当科では手術ロボットシステム、ダヴィンチによる負担の小さい内視鏡手術だけでなく、切らない治療であり、かつ放射線治療より正確で副作用が少ない画期的な方法で、今後第一選択の治療方法になっていくTULSA（経尿道的前立腺超音波焼灼術）を昨年度より開始しました。腎移植については、COVID-19により一時的に腎移植手術を中止していましたが、院内のCOVIDに対する体制が整ったため再開しました。移植コーディネータを含めたチームにより細やかな診療を行っていきます。

血

液内科

太田 秀一

新年度を迎えてご挨拶と血液内科のご紹介をさせていただきます。まず、本年早々から新型コロナウイルスの感染拡大について、北海道では早々の緊急事態宣言からの感染防止策のためか欧米のような感染爆発には至っていないものの今後も緊張感を緩めることなく感染予防の徹底・維持が必要と考えます。当科は北海道の血液病診療の中心的役割を担い各地域から多くの血液病患者を受け入れておりますが、血液疾患特有の免疫不全状態や多くの合併症によって感染症の重症化を招く危険性が高いため厳密な感染症対策が重要となります。当院は以前から全室個室管理であり感染予防には有利と考えますが、今後も新型コロナウイルスを含む各種感染症予防の徹底を図りつつ全ての患者さんに対して安心・安全な医療を提供していきます。なお、感染予防のための様々な制限により皆様にはご不便・ご負担をおかけしますことを何卒ご理解いただきますようお願い致します。

さて、令和元年度末における医師の異動はベテラン2名（重松、山川）・若手3名（木村、須藤、宮島）となりましたが、令和2年度4月からは新たに6名の医師が赴任いたしました。新任の中堅医師3名（江端浩、笠原耕平、高橋秀一郎）は北海道大学血液内科での研究を終えた血液病のエキスパートであり、若手医師3名（吉田匠汰、伊東しほり、森祐斗）も北海道大学血液内科の関連施設で充実した研修を終えた精鋭ばかりです。必ずや皆様のご期待に応えるものと確信いたしております。これからも北楡血液内科を宜しくお願い致します。

消

化器内科

片桐 雅樹

消化器内科は、消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患を担当しています。

急性疾患に対応しており、食道・胃・十二指腸・大腸からの出血や胆管炎に対する診断・治療を随時行っています。

それに加え、早期胃癌・早期大腸癌に対しての内視鏡的粘膜下層切開剥離術、消化器癌に対する化学療法、炎症性腸疾患に対する血球除去療法も行っています。

また外科治療の適応疾患については外科と密に連携しています。

今年度は、片桐雅樹、高野眞寿、小笹真理子、梅村真知子、平田幸司、青山慶哉、中島紗慧の7名で診療にあたっています。日本消化器病学会専門医5名、日本消化器内視鏡学会専門医5名、日本肝臓学会専門医4名で、質の高い医療を目指しています。

なお、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行のため、無症状でも感染している患者さんに内視鏡を行う可能性があり、医師とスタッフに感染のリスクがあると考えます。必要な検査は感染対策を取って行っておりますが、急がない内視鏡検査・治療は延期負っています。

何卒ご理解、ご協力をお願いいたします。

小

児思春期科

小林 良二

当科では今年度は医師の交替なく診療を行っております。当科では高校生までの診療を行っておりますが、その理由は治療成績と学習支援の2本柱でありました。治療成績においては、急性リンパ性白血病においては思春期・若年成人でも小児型のプロトコルを用いた方が成績が良いということがありました。一方の学習支援においては小中学生が院内学級や訪問学級にてサポートされている一方で、高校生においては支援がなされていない問題点がありました。当科では以前から北海道・札幌市の教育委員会に出向き、この問題点を指摘し支援をお願いしてまいりましたが努力は実を結びませんでした。しかしながら、おとなりスマイル(年に1回、講演と音楽会をしています)という活動をしていらっしゃるメンバーの紹介にて国会議員の先生にあう機会をいただき、そこから市議会議員・道議会議員を紹介していただき、北海道の教育委員会にて必要性を話す機会をいただきました。そして、とうとう令和2年2月26日タブレットを用いた授業を、とある道立高校でスタートし、入院中にも単位を取れるシステムの試行が始まりました。今後、他の道立高校、さらには市立高校、私立高校にも進め入院中の高校生がもれなく授業を受けて単位を取れ、留年しなくて良いシステムが構築されるように期待しています。

整

形外科

高橋 修司

10月に大野富雄先生が着任され、これからは常勤医3人体制で診療にあたります。外来診察医も2人になりますので、今までよりも効率的になると考えています。

手術的治療は主に、股・膝関節の変形性関節症に対しての人工関節置換術と、高齢者の股関節周囲の骨折に対して行っています。人工関節置換術は最近では手術法の進歩により、患者さんの社会復帰が早くなり非常に喜ばれています。

これに反し高齢者の骨折治療後は、受傷前に比べ活動度が落ちますので社会的問題にもなっています。当院では地域連携室のスタッフが、退院後の生活について相談に乗っています。

麻

酔科・

緩和・ペインクリニック科

沼澤 理絵

麻酔科と緩和・ペインクリニックを担当しています。4月からは山吹有香先生が加わり、麻酔科は2名体制となりました。新型コロナウイルスの感染拡大で大変な日々が続く中、患者さんが安心して全身麻酔の手術を受けられますよう対策を講じています。ウイルスに感染していることを知らないで手術を受けてしまうと重篤化する可能性があるため、前もってスクリーニングとしての胸部CT検査とPCR検査を行うようにしています。皆様の御理解とご協力をよろしくお願い致します。

当院の昨年1年間の全身麻酔手術件数は361件でした。一般的な消化器疾患、腎泌尿器疾患の手術をはじめ、整形外科手術、骨髄液の提供、腎移植、ロボット支援手術、そして先進治療である前立腺癌超音波アブレーションなど多岐に渡ります。慢性腎不全や血液の病気をもちながら手術を受ける方も多く、特別な配慮が必要となるため外科医師や看護師、臨床工学技士と協働しています。

また、麻酔科医は痛みの治療や緩和ケアの領域でも幅広く活躍しています。当院には緩和ケア病棟もありますので、ご希望がありましたらがん相談支援センターを通して気軽にご相談ください。



新任医師の紹介



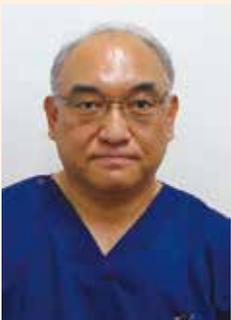
外科
大家 角義

私は、滋賀県と三重県の間にある鈴鹿(山脈)の滋賀県側の山奥で生まれ、自然の中で育ちました。中学3年生の夏休みより一人で故郷を離れ、田舎から、都会に出る形で、兵庫県西宮市の親戚に下宿して、高校に進学しました。

大学は、山陰地方にある国立の鳥取大学医学部に入学しました。医学部は米子(よなご)にありますが、海が澄んできれいなのと、大学から近いので、ヨットや海釣りを楽しむことができました。おっとりした土地柄で、勉強にも集中できました。

卒後は、神戸大学泌尿器科学教室に入局し、60歳まで神戸労災病院にて泌尿器科を中心に臨床に携わりました。その後大阪府の保健所にて行政医師としての勤務を経て、再び泌尿器科医として臨床に戻り、ある病院の透析センターにて勤務していましたが、しっかりとした指導者のもとで修業を積むため久木田先生にお頼みしたところ、快く受け入れてくださり、今日に至った次第です。

この病院は、バスキュラーアクセスでは日本で最高峰の久木田先生の指導が受けられますし、優秀な先生方がそろっています。スタッフも優秀で、医療設備や労働環境もしっかりしていて申し分ありません。こんなところで働けて、つくづく私は、幸せ者だと思います。しかし、ここで浮かれることなく、ぐっと気を引き締めて、精進してまいりたいと思います。常に最良の医療を心がけていきますので、よろしくお願いします。

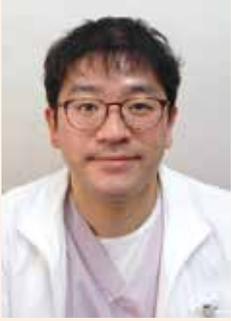


外科
熱田 義顕

はじめまして、7月より外科に勤務しています熱田義顕と申します。未年に函館で生まれその後札幌、幼稚園は釧路、小学校からは旭川で旭川東高、旭川医大と進み高校では柔道・レスリング、大学ではサッカー中心で、少しラグビー、たまに登山をしていました。

卒業後は心臓血管外科医を目指し研修していましたが2009年にドイツ連邦共和国ケルン大学血管外科で臨床研修留学をする機会があり、日本では当時まだ始まったばかりであった動脈瘤に対するステントグラフトなどの血管内治療や様々な血管外科手術の経験をすることができました。2010年からは10年間、国立帯広病院心臓血管外科で大血管・末梢血管外科の診療に携わっていましたがこの度ご縁があり札幌北楡病院で勤務することとなりました。

当院は全国的にも有数のシャント手術が行われている病院で、新たに学ぶことがあり充実した日々を過ごしております。またこれまでの経験を生かして特に透析患者様が多いPAD(末梢動脈疾患)にも少しずつ取り組んでいきたいと考えております。病院のシステムによろやく慣れてきたとこで、いろいろとご迷惑をかけることもあるかと思いますが病院の発展に微力ながら貢献したいと思いますので何卒宜しくお願い致します。



血液内科

江端 浩

2020年4月より札幌北榆病院 内科・血液内科に伺いました 江端 浩(えばた こう) と申します。9年程前にも当院に後期研修医として2年間お世話になり、その後、北海道大学病院・釧路ろうさい病院を経て、2020年4月より再度お世話になっております。

これまで 血液疾患全般(化学療法・造血幹細胞移植など)に関わっており、また、昨年度まで赴任していました 釧路ろうさい病院では 一般内科疾患にも取り組んでおりましたので、何かお困りの問題などございましたら、ご遠慮なくご相談いただければ幸いです。

また、血液疾患につきましては 悪性疾患・非悪性疾患ともに対応させていただきますので、ご遠慮なくご相談いただければ幸いです。

非力ではありますが、皆様の治療へのお手伝いにお役に立てるように対応させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。



血液内科

笠原 耕平

4月から北榆病院勤務となりました笠原耕平です。2009年に秋田大学を卒業し、医師になり今年で12年目になります。出身は札幌市で、大学の6年間だけ秋田にいましたが、卒業後は札幌に戻り、以降は道内の関連病院で働いてきました。大学生の時には部活でバドミントンをやっていましたが、もともと体を動かすのは好きなほうではなく、卒業後は一度もラケット握っていません。そのほか運動もせず過ごしていたので、年齢とともに徐々に太り始めてしまい、大学卒業時には55kgくらいでしたが、2016年には66kgまで体重増加してしまいました。さすがに減量が必要だと考えて2016年にロードバイクを購入してダイエットを図りました。なぜロードバイクであったかという、走るのが嫌いであったのと、ロードレースを見るのが好きだったからと単純な理由です。2シーズンで58kgまでの減量に一時的に成功しましたが、やはり運動習慣は身につかず、ダイエット継続できませんでした。現在は再度体重増加傾向となってしまいました。ダイエットに再トライしたいのが最近のやりたい事ですが、なかなか時間が取れずに(という言い訳で)日々を無為に過ごしております。なんとか今年度中には再トライを始めたいと思います。



血液内科

高橋秀一郎

医師11年目の高橋秀一郎と申します。造血器悪性腫瘍を始めとする血液疾患の診療にあたらせて頂いております。昨年度までは北海道大学病院に勤務しておりました。出身は山形県で、山形大学を卒業後、同県内での初期研修および血液内科後期研修を経て、北海道大学大学院への入学を機に北海道へ参りました。大学院では造血幹細胞移植後の合併症である移植片対宿主病(GVHD)の研究に従事し、動物モデルを用いて皮膚GVHDの病態解明および治療法の開発について取り組んで参りました。大学院修了後は、北海道大学病院にて同種造血幹細胞移植やCAR-T細胞療法を含む治験や臨床研究に携わらせて頂きました。趣味は食べ歩きで、おいしいお店を探しては休日などに足を運んでいます。

札幌北榆病院は道内各地から血液疾患を患った患者さんが集まってくる病院ですので、これまでに得た知識と経験を十分に生かし、最善の治療を提供できるように心がけて参ります。血液診療はチーム医療が重要と考えておりますので、お気軽にお声がけ頂ければ幸いです。皆様、どうぞよろしくお願い致します。



血液内科

吉田 匠汰

皆さま初めまして。自己紹介をさせていただきます。今年度より血液内科で勤務させていただくこととなりました、吉田匠汰と申します。出身は北海道札幌市です。学生時代も札幌市で過ごしました。出身大学は札幌医科大学です。初期研修は札幌医科大学附属病院及び斗南病院でご指導いただきました。その後、北海道大学病院の血液内科に入局しました。医師3年目は釧路ろうさい病院にて血液疾患の他、多くの一般内科疾患を経験させていただきました。この度、住み慣れた札幌市で血液疾患を専門的に学ぶ機会をいただき、大変光栄に感じています。血液疾患は良性疾患から悪性疾患まで幅広く、様々な合併症の管理を要することが多く、日々の診療が充実しており、非常にやりがいを感じています。経験豊富な先輩方からアドバイスをいただきながら、これまでの経験を活かし、一人でも多くの患者さんを救えるよう、日々努力していきます。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。



血液内科

伊東しほり

2020年4月より札幌北楡病院に赴任致しました伊東しほりと申します。大学を卒業後は手稲溪仁会病院で初期研修と一般内科・血液内科の研鑽を積ませて頂き、4月からは血液内科医としてこちらの病院でお世話になります。

私の出身は旭川市で、大学から札幌市に住んでおります。最近はあまり機会がありませんが一瞬レフカメラで景色を撮像することや、読書、旅行が趣味です。北海道の温泉も好きなので、オススメの温泉がある方はこっそり教えて頂ければと思います。

私が血液内科を志した理由は疾患そのものへの興味もさることながら、血液疾患を抱える患者さんとの数々の出会いがきっかけとなり、患者さんとの繋がりを意識できる科だと感じたからです。ある方はきつい治療の中耐え抜いて下さり、ある方はいくつか提示させて頂いた治療選択肢の中で迷っておられ、ある方は治ったに等しい状況の中でも再発の可能性を抱えながら日常生活を過ごされている、その一人ひとりの患者さんの側に寄り添い、一緒に病気とたたかったり病気のメンテナンスを行っていく、そんな血液内科医でありたいと思っています。

まだまだ若輩者ではありますが、精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



血液内科

森 祐斗

医師3年目の森と申します。2018年に北海道大学を卒業し、2年間帯広厚生病院で初期研修を行いました。帯広は気候もよく、食べ物もおいしく、温泉も有り、また研修医も多く、そこそこ忙しい研修生活を送りながらも充実した日々を送っていました。血液内科には、学生のころより学問として、また化学療法や移植で悪性腫瘍であっても治癒を目指すことのできる科として興味がありました。初期研修では様々な科をまわりましたが、やはり血液内科に進みたいという思いは変わらず北大血液内科に入局致しました。3年目からこのような移植や治験を積極的に行っている施設で働くことは不安も大きいですが、恵まれていると感じます。医学に関する知識が少ないのはもちろんですが、医師としての姿勢、態度もこれからは身につけていく必要があると感じています。まだまだ未熟であり皆様にはご迷惑をおかけることも多いかと思いますが、多くの患者を救うことの出来る医師を目指して精進いたしますので、何卒宜しくお願ひ致します。



消化器内科
梅村真知子

このたび消化器内科に赴任いたしました梅村真知子でございます。消化器内科医師として函館医、釧路、札幌など道内各地で勤務したのち、北海道大学大学院にて学位を取得し、このたび6年ぶりに北榆病院で勤務させていただくこととなりました。スタッフ、患者様の中にも懐かしい顔ぶれを見つけることができ、また新病棟も加わり大きく発展した北榆病院で働けて嬉しい毎日です。専門は肝臓病学ですが消化器内科全般について主に外来診療を行なっておりますので、お気軽にご相談いただければと思います。コロナ感染など心配なニュースが多い今日この頃ですが、日本の医療水準やひとりひとりの自衛力の高さは世界一ですので、かならず持ち堪えられると考えております。患者様にご不便な思いを我慢して頂き心苦しいことも多々ございますが、協力して乗り越えてまいりましょう。改めてどうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科
平田 幸司

このたび4月から勤務しております消化器内科の平田と申します。福岡県出身で、北海道大学を卒業後、苫小牧市立病院、網走厚生病院、札幌北辰病院、北海道大学病院で勤務してまいりました。大学では胆膵領域の内視鏡診断と治療を専門としておこない、研究では胆道癌のゲノム解析などに取り組んでおりました。好きな女性のタイプは加藤あいです。阿藤快も結構好きです。

これまで培った知識と内視鏡技術で白石地区の医療に貢献できるよう尽力したいと思います。よろしく願いいたします。



消化器内科
中島 紗慧

はじめまして、4月より消化器内科医として赴任いたしました中島紗慧(なかじまさえ)と申します。札幌で生まれ育ち、札幌北高校・北海道大学を卒業しました。同じく消化器内科医の夫と、もうすぐ3歳になる息子と3人家族でドタバタと楽しく過ごしています。趣味は楽器演奏や音楽鑑賞で、私の弾くピアノと夫のサックスの音に合わせて、よく息子が踊ったり歌ったりしています。

消化器内科は急性期から慢性期まで、また消化管や肝胆膵など非常に幅広い臓器をみる診療科です。消化器内科というと、胃カメラや大腸カメラを持って癌を早期発見・早期治療する科というイメージが強い方もいらっしゃるかと思いますが、直接生命には関わらないものの過敏性腸症候群による下痢や便秘、逆流性食道炎による胸やけなど生活の質にも大きな影響をもたらす疾患を扱うのも当科の特徴です。また、ピロリ菌やB型肝炎ウイルス・C型肝炎ウイルスに対する除菌治療やウイルス排除など、診断から治療、そして予防までの全てに関わることができる科でもあり、患者さんと長らくお付き合いさせて頂くことも多いです。そういう中で、相談しやすく、また信頼できる医師になりたいと考えたのが消化器内科医を目指したきっかけであります。

患者さんやご家族の皆様との対話を大切に、提供しうる最善の医療を行いたいと考えております。まだまだ至らぬ点も多々あるかと存じますが、少しでもお役に立てるよう誠心誠意努力致しますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



消化器内科

青山 慶哉

消化器内科医の青山慶哉(あおやまけい)です。4月1日付けで赴任し、9月末までこちらで働かせていただきます。生まれは北見で、すぐに親が転勤となりずっと札幌に住んでいました。出身大学は北海道大学です。卒業後は、JCHO北海道病院で2年間初期研修を行い、その後は北見赤十字病院で2年間勤務しました。

趣味は旅行、スキー、釣り、キャンプ、ゴルフ、車、靴磨きです。学生時代は車で福岡から札幌まで日本一周をしたり、夏はよく釣りで遠征してキャンプをしていました。最近では外出自粛のこともあるため、時間があるときは靴磨きをしています。あまりいないとは思いますが、靴磨きが趣味の方は是非声を掛けて下さい。また去年子供が生まれたので、今は家に帰った後子供をお風呂に入れるのが癒しの時間です。

半年間という短い期間ではありますが、精一杯頑張りますのでお困りの際はいつでも気軽にご相談ください。

まだまだ医師として未熟なため、ご迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが、何卒宜しくお願い致します。



麻酔科

山吹 有香

このたび、北楡病院に勤務することになりました、麻酔科の山吹有香です。

こちらに勤務する前は、市立札幌病院に3年いました。市立病院では、感染症病棟がコロナウイルス感染者で満床となり、精神科病棟を新たに感染症病棟に増床したりと、バタバタしている時に移動になりました。

現在、コロナウイルスの緊急事態宣言により、学校が再休校になっています。私の息子も、小学校に行けなくなり、児童館に通っています。大好きな給食がなくなり、毎日お弁当の日々です。てきとうな夕食で、息子には給食で栄養をとってもらっている私の家庭では、大打撃です。現在、未曾有の事態が起っていますが、あの時は大変だったと思える日が早く来ることを願っています。

北楡病院の手術麻酔は、外科と泌尿器科と整形外科が主ですが、透析や血液疾患の方がとても多いです。また、骨髄ドナーの骨髄採取や前立腺癌のMRI室での麻酔と特殊な麻酔もあります。カンファレンスも、内科と外科と麻酔科の合同で行っており、特色のある病院だと感じています。

また、北楡病院は、方向音痴の私にとって迷路のようです。食堂に行く道にはやっと慣れましたが、病棟になかなかとどり着けません。回診などで、間違った病棟に行った際には、笑ってお許し下さい。

この数年は、麻酔科は沼澤先生お一人で頑張ってこられたので、少しでも助けになり、病院に貢献できればと思っています。

外来診察担当一覧

午前 午後

(令和2年9月1日現在)

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科 血液内科	太田 小笠原 皆内 吉田	小林 今村 高橋(正)	今村 小林 江端	岩崎 岡田 伊東 [SO外来] 小林 (15:00~16:00) (完全予約制)	小林 小笠原 皆内 岡田	高橋(正) 今村 森	太田 小林 岩崎 北大医師	皆内 江端 吉田 北大医師	岡田 小林 高橋(正) 森	笠原 今村 伊東	交替医師
消化器内科	片桐 梅村	中島	平田 小笹	高野	小笹 片桐	梅村 平田 [肝専門外来] 須田 (13:30~14:30)	高野 小笹	片桐 小笹 (15:00まで) 中島/青山 (隔週交代)	片桐 小笹	青山	交替医師
腎臓内科								山村			
糖尿病代謝内科					※1澤村		※1澤村		澤村		
循環器内科					交替医師		交替医師				
外科	米川/熱田 (隔週交代) 後藤	目黒	服部 (隔週) 木井	佐藤/木井 (隔週交代) 久木田	目黒 服部	堀江 堀江 高橋 [フットケア外来] (13:30~16:00) (完全予約制)	堀江 高橋	高橋	久木田 佐藤	堀江	交替医師
肛門外科	小野寺		宮下	山内	宮下	山内	小野寺		宮下	山内	交替医師
腎臓移植外科 泌尿器科	三浦(9:30~) (原則予約診療)				東山		三浦(9:30~) (原則予約診療)		東山		
	東山						東山				
整形外科	東 高橋		東		高橋		東		高橋		
小児 思春期科	小林(邦) 小林(良)	小林(邦) 堀	小林(邦) 鈴木	小玉 [アレルギー外来] 小林(邦)	小林(邦) 柳	大鈴 島木	【血液外来】 小林(良) (完全予約制)		松島 小林(良)	柳 【血液外来】 ※2小林(良) (完全予約制)	交替医師
スリープ外来			高橋								
緩和・ペインクリニック (完全予約制)					沼澤						
禁煙外来 (完全予約制)		三浦									
歯科 (完全予約制)	加藤		加藤/大畑		加藤		加藤/北大医師		加藤	加藤	

免疫細胞療法 (完全予約制)		小笠原		小笠原		小笠原 太田		小笠原		小笠原	
-------------------	--	-----	--	-----	--	-----------	--	-----	--	-----	--

◎免疫細胞療法専用予約電話：0120-75-5706
免疫細胞療法は保険外診療のため、保険診療との併用はできません。ご希望される方は事務員にお声掛けをお願いいたします。

- ※1 糖尿病代謝内科：第3水曜日・第3木曜日は休診となります。ご注意ください。
- ※2 金曜日午後の小児思春期科小林良二医師は「長期フォローアップ外来」「セカンドオピニオン外来」も併せて担当しております。
- ◇ 都合により代診・休診となる場合がございますので事前にご確認をお願いします。

外来予約 電話受付

【平日のみ】午前9時00分～12時00分 / 午後13時30分～16時00分

予約専用電話 TEL 011-865-0201

注：歯科の予約は011-865-0111(病院代表電話です)

- 予約の際に受診科、氏名、生年月日をお知らせください。
- 日曜日、祝日は診療をしていません。
- 土曜日は予約診療を行っていません。
- 予約がなくても診察を受けることができます。
- 診療の際に、前後の患者さんの状態で、多少時刻が変わることがあります。

外来受診される方(付き添い者を含む)へ

スリッパ履き替え 廃止のお知らせ



今まで来院された方、皆様にスリッパの履き替えをお願いしておりました。このたび、医療安全(転倒リスク)と感染対策(新型コロナウイルス:COVID-19感染リスク)の観点から外来受診される方(付添者を含む)に限りスリッパへの履き替えを廃止する事と致しました。面会など対象外の方は、スリッパへの履き替えと使用後のスリッパに触れた後は手指衛生をお願いいたします。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

札幌北楡病院 病院長

編集後記

いつも広報誌エルムをご覧いただきありがとうございます。

今回の掲載内容は、各科医師のあいさつ・新任医師の紹介となっております。今回ももう少し早い時期での発刊予定でしたが、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で発刊が遅くなってしまいました。次号広報誌エルムからは今まで通りの発刊にて病院情報をお伝えしていきたいと考えておりますので、今後もお手に取っていただくと幸いです。(T・S)

 社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院

診療科目

外科・肛門外科・消化器外科・腎臓移植外科・泌尿器科・内科・血液内科・消化器内科・腎臓内科・糖尿病代謝内科・循環器内科・小児思春期科・整形外科・麻酔科・放射線科・歯科

住所 札幌市白石区東札幌6条6丁目5番1号
TEL: (011) 865-0111 FAX: (011) 865-9634

交通 地下鉄白石駅5番出口から環状通り 北の方へ徒歩5分左手

ホームページ <https://www.hokuyu-aoth.org/>

